

あまがえる

茨城県

むかし。

あるところに、親のいうことをいっこうに聞かないかえるの子どもがいました。右へ行けといえ左に行くし、左へ行けといえ右に行くといったぐあいで、その子は、親の反対ばかりをしました。

そのうち、親がえるは、年をとってしまい、こう考えました。

「わしが死んだら、山にうめてもらいたいが、山にうめてくれといったら、あの子はきつと、川にうめるにちがいない」

そこで、親がえるは、子どものかえるにいいました。

「わしが死んだら、川のそばにお墓をたててうめておくれ。けっして、山の中にうめなideくれ」

やがて、親がえるが死んでしまいました。子どものかえるは、

「おれは、親が生きているとき、反対ばかりをして、悲しませたなあ。せめてさいこの願いだけはきいて、いわれたとおりにしよう」と思いました。

子どものかえるは、川のそばにお墓をたてて、親のかえるをうめました。

ところが、雨がふると川の水がふえて、お墓が流されそうになります。子どもは、心配で、ゲーコ、ゲーコと鳴きました。

それでも、あまがえるは、雨がふるたびに、ゲーコ、ゲーコとなくのだそうです。おしまい

原話…『勝田の昔話と伝説』勝田市史編纂委員会
再話…村上郁